広報 九州
国民の森林・国有林
平成30年3月10日
（2018年）
No.１７５３
九州森林管理局
〒860-0081
熊本市西区京町本丁２－７
IP電話：050-3160-6600（代表）
http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/

第2回屋久島世界遺産地域科学委員会及びヤクシカ・ワーキンググループ会議を開催

～屋久島世界遺産地域の適正な保全・管理に向け意見を聴取～

２月１６日及び１７日に、今年度２回目の屋久島世界遺産地域科学委員会及び科学委員会の作業部会であるヤクシカ・ワーキンググループ会議を、鹿児島県市町村自治会館において開きました。

遺産地域の適正な保全・管理について
議論が行われた科学委員会の模様

科学委員会の冒頭、事務局を代表し、環境省九州地方環境事務所の岡本光之所長から「屋久島世界遺産地域の適正な保全・管理について、科学的・順応的管理のための助言を頂き感謝申し上げる。本委員会は、平成29年度の取組実施結果や平成30年度のモニタリング調査などの計画、ヤクシカ・ワーキンググループでの検討結果、山岳部利用の検討状況などに対し、遺産地域における自然資源の利用と自然環境の保全との両立に向けた更なる助言をお願いしたい」と挨拶がありました。

続いて、屋久島町の荒木耕治町長より「遺産地域の保全・管理を始め、本町の振興・発展にご理解ご協力を賜り感謝申し上げる。先日は全国エコツーリズム大会が屋久島で開催され、屋久島の価値創造と観光立町の実現を目指し、ユネスコエコパークを活用した町づくりに取り組むことを宣言した。屋久島の自然環境の保全・管理、持続可能な取組により、価値が損なわれることなく未来に引き継がれるよう、本委員会の助言・提言を町政に反映したい」と挨拶がありました。

科学委員会での議論内容

今回の委員会では、第1回科学委員会における議論の要点を確認した後、①平成29年度モニタリング調査等の結果、②平成30年度モニタリング調査計画、③前日に開かれたヤクシカ・ワーキンググループの議論、④山岳部における利用と保護の検討状況などについて報告があり、それらを踏まえて議論が行われました。

主な議論としては、山岳部の登山者における携行トイレの利用率や携行率、利用に伴う聞き取り調査結果が報告され、「縄文杉ルートの登山者はピークに比べると下がっているが相変わらず多い、大株歩道の利用者が増加することを想定した上で管理する側は対策を取る必要がある」との助言がありました。

また、高層湿原「小花之江河」に対するヤクシカの影響調査のための植生保護柵の設置が報告され、「景観への配慮も重要な場所であり、情報提供や意見の聞き取りなどプロセスも大事である」との助言がありました。

続いて、これまでも度々議論になっていた、高層湿原保全対策については、２０１８年度に水の収支や水路の拡大など、水文学的なモニタリング調査を実施することが報告され、「専門的に検討する場を設けるなど、適切な保全管理を進めることが必要である」などの助言がありました。

その他には、登山道荒廃状況などの調査結果、山岳部利用のあり方検討会の開催、縄文杉ケーブリング撤去、外来植物「アブラギリ」駆除の実施、屋久島山岳部環境保全協力金の収納状況などについて報告がありました。

ヤクシカWG等の報告

続いて、矢原徹一委員長から、前日に開かれた、ヤクシカ・ワーキンググループ会議及び鹿児島

県特定鳥獣保護管理検討委員会合同会議の議事内容について「屋久島におけるヤクシカの生息状況については、推定生息数が減ってきていることが想定される」「環境省が実施した、シャープシューティングによる試験捕獲については、一定の効果があった」などの報告がありました。

また、屋久島の生態系管理目標の設定について基本的な考え方などが示され、早急な策定が望まれるとされました。

最後に、当局林視計画保全部長から「昨日からの会議で、ヤクシカ対策の課題、生態系管理目標の設定、高層湿原保全対策への意見のほか、山岳部の登山道整備や利用の検討、屋久島世界遺産地域管理計画の見直しなど様々な提案や意見を頂いた。本日頂いた提案や意見について、今後も関係行政機関が連携を図りながら進めていくので、引き続き屋久島世界遺産地域の適正な保全・管理のための指導・助言を賜りたい」と挨拶があり、委員会を終了しました。

当局では、今後も本委員会の助言を得ながら、屋久島世界遺産地域の貴重な自然環境を適正に保全・管理していくこととしています。

（担当＝計画課・保全課）

ヤクシカ・ワーキンググループ会議の模様

請負事業体等の安全会議を開催

【宮崎北部森林管理署】1月24日、当署会議室において、請負事業体の事業主及び現場代理人など13人と当署職員21人が参加し「安全会議」を行いました。

この会議は、２０１７年度の請負事業体における重大災害を踏まえ、労働災害防止を図ることを目的に開いたものです。

会議では、当署担当者から、重大災害の分析や、伐木作業に係る各法令などについて説明するとともに、各請負業者が労働災害防止の取組を発表し、その後、意見交換を行いました。

最後に、国有林から労働災害を絶対出さないとの決意から、安全唱和「安全作業で行くぞヨシ！」で意思統一を図り会議を終了しました。

労働災害防止を誓い安全会議

遊々の森等で森林教室・体験活動

【北薩森林管理署】2月22日に、ＮＰＯ法人しいのきの森小床と当署が主催し、遊々の森「しいのきの森小床」及び隣接する民有林に設置されている「癒やしと学びの森」において、森林教室を実施しました。

この森林教室は、子供たちに森林・林業の大切さを学ぶことをテーマとして実施しており、伊佐市立針持小学校の生徒・職員、伊佐市役所、ＮＰＯ法人及び報道関係者など21人が参加し、当署職員６人が講師を勤めました。

当日は、ＮＰＯ法人の二之形一秋理事長の開会挨拶に始まり、講師役の職員が「キュツパになろう！」と呼びかけ、森の中で色々なものを拾ってきては分類し、博物館を作ってしまう丸太の男の子「キュツパ」の物語を話した後、森林散策に出かけました。

子供達は渡された箱の中を、どのように分類し飾っていくかを考えながら、落ち葉やドングリを見つけては夢中になって拾い集めてマイ・ミュージアムボックスを作成、この活動で、森にあるものをよく観察・分類し飾ることを体験できたのではないかと思います。

さらに、山学校「みどりの教科書」では、森林・林業の大切さや木材の利活用について学んだ後、体験活動として空飛ぶ種子の説明と種子の模型飛ばしに挑戦しました。

森林教室の最後には、参加した生徒・職員からお礼の挨拶があり、生徒たちからは「知らない葉っぱやツルなどがあり、キュツパになれたようで楽しかった」「身近にある森林の大切さを学べた」などの感想が聞かれ、子供たちには、森林・林業の大切さを学ぶ良い機会となりました。

マイボックス作りに夢中な生徒たち

森林教室に参加した小学生たちと

国有林モニター会議@菊池市に参加して

モニターの声

山中 富由美
（大分県佐伯市在住）

はじめの県道45号付近の視察では、実際に現場を歩き、間近で土砂等の崩落地を見ることができ、当時の地震の凄まじさを改めて実感することが出来ました。また、説明に合わせてワイヤやネットの実物を間近で見たり、施工前後の写真や工事機器の写真を使った説明など、土木工事等に疎い私のような者にとって、とてもわかりやすくて良かったです。

それらの説明時に、億単位の費用比較などを多数引用しながらお話してくださったのには、このような自然災害をただ単に復旧させるだけではなく、費用対効果や現地での安全面を考慮した上で、どこまでの復旧を優先するべきなのかも考えなくてはいけないのかなと改めて思いました。

次の菊池渓谷内視察ですが、実際視察したのはその一部かもしれませんが、崩落現場や被害度合をとても詳細に感じることができ良かったです。

現地での説明では、渓谷内の土砂流出や倒木で一時は渓流の流れも滞っていたとのこと。現在の渓谷美の素晴らしさを見ながら、復旧工事の方々のご苦労はいかばかりであったかと改めて感じられました。

また、来春には渓谷の観光再開を目指しているとのお話に、少し安堵の念を感じることが出来ました。現地は工事中であり、未だ観光客等は立ち入り禁止状態であるにも関わらず、今回の視察で、実際に被害状況をしっかり肌で感じることができ、担当の方々のご配慮には感謝するばかりです。

最後に、熊本森林管理署での意見交換会ですが、毎回ながら、皆さんのとても熱心なご意見には感心するばかりです。この意見交換会は森林管理署の方々のお話を聞いたり、質問したりすることもでき、当日の行程を思い起こしながら自分の考えを改めて整理ができる時間が持てててとてもよかったです。

田野 光彦
（鹿児島県さつま町在住）

今回、熊本地震からの復旧がどれくらい進んでいるのか、この目で是非確認したかったので参加できて大変参考になりました。菊池渓谷までの道のりは復旧途中という感じでしたが、渓谷近くになると道も狭く、山肌が崩れているところが数カ所見られました。

県道45号崩壊箇所に関わる治山事業実施箇所を見ましたが、極めて困難な復旧作業であり、現場まで足を運んで眼前に切り立つ急激な崖を見ると凄みを感じました。大変な工事現場の中、確実に復旧・復興作業は進んでいると感じました。改めて林野庁や関係機関の努力に頭の下がる思いです。

菊池渓谷内の視察では、途中昼食を挟んで2時間ほど歩きましたが、森林が出すというフィトンチッドを体内に取り入れながら気持ちのいい散策でした。夏場にはもっとすばらしいレクリエーションの場になるだろうと思いました。

最後に、国有林モニター会議の意見交換では様々な意見が出され、今後、意見交換で出された違った視点での意見も参考にしながら、専門的な論議を深めて森林行政を行い、国有林を守ってほしいと思いました。

屋久島で全国エコツーリズム大会開かれる

【屋久島森林管理署】2月10日から12日の3日間に渡り、屋久島町総合センターをメイン会場として「全国エコツーリズム大会in屋久島２０１８」が開かれました。

この大会は、屋久島が世界自然遺産に登録されて25年となる中で、屋久島町内のエコツーリズムの取組を全国に発信することで、屋久島・口永良部島への関心を取り戻し観光客を増加させることを目的に、屋久島町エコツーリズム推進協議会が主催したものです。

全国から多くの関係者が参加した大会の模様

大会へは、県内はもとより全国から関係者約２１０人が参加し、当署からも川畑充郎署長が出席しました。

大会初日の開会式では、三反園訓鹿児島県知事などの挨拶があり、その後「持続可能なエコツーリズムとは？」と題し、ＪＴＢ会長の田川博巳氏の基調講演、日本エコツーリズム協会理事の松本毅氏からは、屋久島のエコツーリズムの現状などについて問題提起がありました。

２日目は、「観光基本計画」「エコパーク構想」「環境保全と協力金」「地域としての取組」「ガイド登録認定制度」の５つの分科会に分かれて、専門知識を持つパネリストからの提言などがあり、参加者との活発な意見交換が行われた後、全体会を開き、各分科会報告と大会宣言が行われました。

３日目は、５つのコースでエクスカーションが予定されていましたが、天候不良により西部林道エコツアーと里めぐりツアーが行われました。

当署としては、屋久島町エコツーリズム推進協議会の構成員として、引き続き関係機関と連携しながら、屋久島におけるエコツーリズムの発展に寄与していく考えです。

照葉樹林復元ボランティア間伐を実施

～照葉樹林復元へ向け19人が間伐作業～

綾の照葉樹林プロジェクトでは、照葉樹林への復元を図るため、一般企業や学生、NPO、綾町民を含む一般市民など、様々なボランティアの方々による間伐作業を、2005年の協定締結以降実施しています。

2月14日、今年度第2回目となる間伐作業が、宮崎県綾町柚園国有林において、大和ハウス工業株式会社の社員及び一般参加のボランティアの方々19人が参加し実施されました。

ボランティア間伐を行った参加者の皆さん

当日は、天候にも恵まれ集合場所である綾町役場に集合、車3台に分乗し作業地近くの綾南林道に移動し開会式が行われ、主催者を代表し宮崎森林管理署飯干好徳署長による挨拶のあと、参加者は作業地に移動、スギの木の伐倒や伐倒した木の玉切り、枝打ち作業を行いました。

参加者の中には、立木を伐るのが初めて、鋸を使うのも初めてという方もおり、受け口・追い口切りに息を切らせ、悪戦苦闘しながらも楽しく作業が行われ、伐倒したときの迫力に歓声や拍手が上がっていました。

真剣に作業を行う参加者

参加者からは「こんなイベントがあるなんて、宮崎は素敵なところですね」「楽しかったし、ノコギリの使い方を教えていただき、勉強になった」「いい活動ですね」などの声が聞かれました。

綾の照葉樹林プロジェクトでは、今後も引き続きボランティアの皆様の力もいただきながら照葉樹林の復元に取り組んでいくこととしています。

（担当＝計画課）

地域課題の解決に向け椎葉村と意見交換会

【宮崎北部森林管理署】宮崎県椎葉村の椎葉村議会及び尾向公民館の代表者と、国有林内の森林整備についての意見交換会を開きました。

冒頭、椎葉村議会産業福祉委員会委員長及び尾向公民館長より、これまでの国有林野事業に対しての感謝とお礼の言葉があり、その後、当署から事業内容などの説明を行い、意見交換に入りました。

意見交換においては、地域住民の安全・安心な暮らしを守るため、治山事業を含めた森林整備を今後とも計画的に進めていくことや、椎葉村としても、国有林野事業に対して全面的に協力していくことなどの意見が出され、今後の地域課題の解決に向けて、有意義な意見交換の場となりました。

安全・安心な暮らしに向け意見交換

園児のカレンダー専用掲示板を設置

【宮崎南部森林管理署】当署には、毎月、日南幼稚園の園児達が、手作りの可愛いカレンダーを署に届けて、掲示してくれており、このカレンダーの掲示は15年ほど前から継続して行われています。

この度、この話を聞いた南那珂森林組合の代表理事組合長松田義一さんから、園児たちのために、飫肥杉で作った専用の掲示板を寄贈していただきました。

2月28日には、年長組園児24人が署を訪れ、新しく作ってもらった飫肥杉の掲示板に、園児たちの手で3月分のカレンダーを貼ってもらいました。

これから、この専用の掲示板に園児達のカレンダーを貼ってもらいますので、毎月変わる可愛いカレンダーを、当署にお越しの際には是非ご覧になってください。

松田組合長を中心に園児達と記念撮影

掲示板にカレンダーを貼る園児

12団体が活動を発表 背振サミット盛大に開催

【福岡森林管理署】２月18日、西南学院大学西南コミュニティセンター・ホールにおいて、「未来へ残そう脊振の大自然」をセミタイトルに、脊振山系で活動するボランティア団体や佐賀県・福岡市・当署など12団体が日頃の活動内容などを発表する、初めてのイベントが開かれました。

この脊振サミットは、脊振山系のもとで各団体などが行っている、環境活動などの認識を深め、情報共有し、これからの活動に向けて、参加団体をはじめ多くの人々との連携の実現を目指すことを目的に開かれたもので、一般の方々など約１５０人の参加がありました。

150人が参加して開かれた背振サミット

発表の前には、脊振山麓の伝統文化の紹介があり、子どもたちによる神楽舞の奉納が披露され会場を沸かせました。

当署からは、平成29年7月九州北部豪雨による、山地災害発生メカニズムと今後の復旧計画について発表し、特に、被災当初の上流部の状況写真については、報道される機会も少なかったことから、会場からどよめきが起こっていました。

今回の発表では、都市部の市民に対しても、山地災害の脅威や治山事業の重要性、森林管理署の役割をＰＲする良い機会となりました。

森林環境を保全していく取組は、関係者が連携していくことが重要であり、来年以降も継続して実施される事を期待しています。

なお、このサミットの様子は、地元ケーブルテレビのニュースでも放映されるなど、注目度の高いイベントとなりました。

子供たちによる神楽舞

森のセミナーを開催

【熊本南部森林管理署】当署会議室において、本年度二回目の山の日記念イベント「森を身近に！森のセミナー」（当署主催、球磨地域振興局共催）を開きました。

当日は、講師に環境省希少野生動植物種保存推進員の乙益正隆氏を迎え、一般参加者及び当署職員など約20人が参加しました。

はじめに、「戌年に関わりのある草木ばなし」と題して、イヌノフグリとオオイヌノフグリの生態や特徴、絶滅に瀕している植物についての講話、続いて、乙益氏が考案された、横綱から前頭十二枚目の「植物方言番付表」では、植物方言の由来などについて説明がありました。

講師の面白く楽しい昔話に、参加者からは時折笑い声も聞かれるなど、植物と人との関わりについて知識を深めたセミナーとなりました。

乙益氏の講話の様子

【お知らせ】

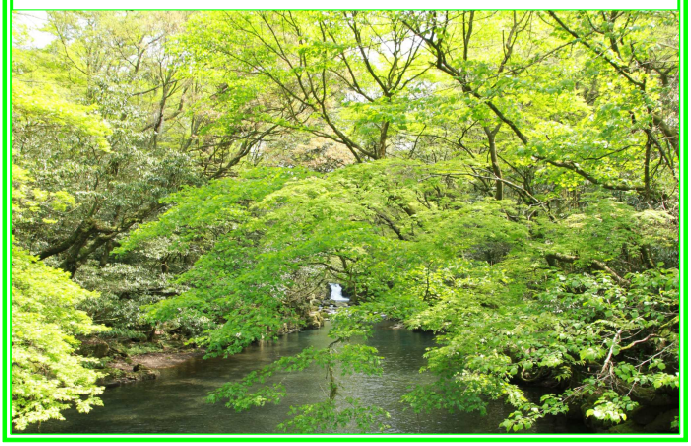
3月24日 菊池渓谷再開

２月２０日、「菊池渓谷を美しくする保護管理協議会」の臨時総会が開かれ、２０１６年の熊本地震により被災し、入谷が規制されていた菊池渓谷を、３月２４日から再開することが決まりました。

地震による渓谷斜面の崩落、歩道への落石など大きな被害を受けた菊池渓谷でしたが、関係機関による復旧工事により、渓谷入口から広河原までの遊歩道片道１㌔コースについて入谷できるようになりました。

広河原から上流については、被災箇所の復旧が終わっていないことから規制解除は出来ていませんが、約２年振りに再開される菊池渓谷の自然を堪能されてはいかがでしょうか。

【入谷再開に関するお問合せは下記まで】
菊池渓谷を美しくする保護管理協議会
（菊池市役所商工観光課内）
TEL ０９６８－２５－７２２３



鹿児島県内4例目の安全確保等の協定締結

【北薩森林管理署】1月30日、さつま町役場において、さつま町長と当署長の間で、鹿児島県内において4例目となる「地域の安全確保に向けた森林情報の共有及び長期的森林の育成に関する協定書」の調印式を行い、さつま町、鹿児島県北薩地域振興局、当署及び報道関係者など16人が出席しました。

調印式は、当署松永善人森林技術指導官の司会進行のもと、北薩地域振興局入佐真一農林水産部長に立会人として同席いただき、日高政勝町長と前田三文署長が協定書に署名・捺印しました。

さつま町との調印式の模様

調印に当たり、日高町長より「さつま町は総面積の約65％が森林（内国有林29％）であり、常日頃から森林の管理・情報を共有し、台風などの災害時に民国連携を図ることは重要」との挨拶がありました。

続いて、前田署長から「森林を健全に育成することが災害防止につながる。地域課題などに民国が連携して取り組むことがますます重要であり、互いに情報交換を重ねていきたい」と今後の連携について挨拶し、調印式を終了しました。

調印を終え日高町長（中央）入差部長（右）と

日田市・九重町と安全確保等の協定締結

【大分西部森林管理署】昨年行われた、九州森林管理局長と日田市長・九重町長との地域林政対談を受け、「地域の安全確保に向けた森林情報の共有及び長期的な森林の育成に関する協定」を、2月14日に九重町長と、同20日には日田市長と、それぞれ当署長との間で締結し調印式を行いました。

九重町には、久住山北麓や九重大吊り橋周辺などに、管内市町村で最大の約4400㌶の国有林が所在し、地域の観光資源として、町との間でレクリエーションの森協議会の立ち上げに向けた調整を進めています。

日田市では、昨年7月の九州北部豪雨の際に、ヘリコプターによる上空からの災害調査データを、調査当日に市に提供するなど連携を図っています。

このような従来からの連携を、今回の協定締結により、さらに進めていくことが確認されました。

九重町との調印式を終え関係者と

日田市との調印式を終え関係者と

全国初！共同施業団地を含むシカ被害対策協定を締結

【熊本南部森林管理署】2月9日、五木村役場において、同村内の森林共同施業団地エリア内も対象区域とした、全国で初めてのシカ被害対策協定を、五木村長、熊本県猟友会五木支部長、当署長の三者で締結しました。

協定締結後、和田拓也村長からは「五木村では現在シカによる被害が多数見受けられる。今後、国有林や猟友会と協力してできるだけ多く捕獲し、適正な頭数になるようにしていきたい」犬童雅之支部長からは「くくりわなを使用することで駆除の効果はさらに高まると思う。今回の協定に基づき少しでも被害軽減につながるよう努力していきたい」と挨拶がありました。

最後に、工藤孝署長から「4月以降は、五木村全体に森林共同施業団地のエリアを拡大する予定であり、駆除範囲も広げていこうと考えている。今後も被害軽減による山村地域の振興に向けて協力していきたい」と挨拶し、調印式を終了しました。

当署においては、シカ被害の軽減に向けて、地元の協力を得つつ、他町村でも取り組みを進めていく予定です。

調印式を終えた3者（右端：工藤署長）

家族連れなど300人がクロマツ植樹活動

【福岡森林管理署】2月4日、福岡県宗像市の国有林「さつき松原」において、さつき松原管理運営協議会・宗像市主催により、家族連れなど約300人の参加のもと、クロマツ苗の植樹活動が行われました。

当日は、曇り空で冷たい風が吹いていましたが、参加者の熱気が伝わったのか、途中からは日差しがさし込むなど幾分か寒さも和らぎ、植栽にとって良好な天候となりました。

植樹活動では、協議会会長の挨拶に続いて、当署職員による植え付けの説明があり、その後参加者は、用意された植樹場所において植え付け作業を行いました。

300人が参加した植樹活動

丁寧に苗木を植える子供

冷たい中での手作業でしたが、元気に育つよう願いを込めながら1本1本丁寧に、また、和気あいあいと作業が進められ、用意された1000本の苗を1時間ほどですべて植え付けすることが出来ました。

ここさつき松原は、1987年に、(社)日本の松の緑を守る会による「日本の白砂青松100選」にも選ばれるなど、地元にも親しまれており、今回のような植樹活動などの継続が、さつき松原の再生にとって大変重要なものになっています。

出水森林整備推進協定運営会議・現地検討会を開く

【北薩森林管理署】2月21日に、当署出水森林事務所及び日本製紙社有林において、「出水森林整備推進協定運営会議・現地検討会」を、日本製紙株式会社及び北薩森林組合、木原造林、鹿児島県北薩地域振興局、出水市、当署の関係者12人が参加し実施しました。

運営会議では、当署松永善人森林技術指導官の「事業計画に沿った実行と進行管理に努めるとともに、共同施業団地における民・国路網連結を実現するために、協定者が連携することが重要である」との挨拶に始まり、各協定者から、2016年度事業実績報告、17年度事業実行の見込み及び今後の事業計画についての報告、続いて、事務局から新たな共同施業団地設置や、システム販売導入などの考え方について説明が行われました。

運営会議終了後、会場を日本製紙社有林に移し、共同施業団地において民・国の路網連結に取り組む、当署及び日本製紙、木原造林から、実施状況や今後の実行計画を報告するとともに、北薩地域振興局から、路網などに関する県の支援事業の説明を受けた後、質疑・意見交換などが行われ、運営会議・現地検討会を終了しました。

事業報告などが行われた運営会議

日本製紙社有林での現地検討会の模様

イベントで子供達と木製ストラップづくり

【大分西部森林管理署】2月4日、日田市などが主催する「日田の木と暮らしのフェア」が開かれ、当署もブースを出展、来場した子供たちと、木製ストラップづくりに取り組みました。

子供たちは、国有林内から採取して用意された小枝などの材料を選んでは、職員のサポートを受けながら思い思いに様々なストラップを完成させていました。

フェアでは、他にも高校生によるジビエを利用したレシピコンクールや高性能林業機械の展示実演、小学生が変身した「木(もく)レンジャー」ショー、森林総研による北部豪雨災害と森林の斜面崩壊防止機能に関する講演など多彩なイベントが行われ、来場者も多く、当署のブースも来訪者が途切れることがありませんでした。

林業地日田の底力を見るような、多くの来場者に、当署も関係機関の一員として、引き続き地域林業の活性化に取り組んでいく意識を新たにすることができました。

ストラップ作りで賑わう当署ブース

小学生23人が屋久島の森林・林業を学ぶ

【屋久島森林管理署】2月10日、屋久島地杉加工センター内において、当署も構成員である屋久島林業推進検討会主催の、屋久島町立小瀬田小学校5・6年生の23人を対象とした木工教室などが開かれ、当署からは植薄和彦森林技術指導官が参加しました。

はじめに、事務局である鹿児島県屋久島事務所池松林務係長が「木の香り、木のぬくもりを感じて下さい」と挨拶、続いて屋久島地杉加工センターの時事業統括マネージャーが、森林の役割や自然の大切さについて、手作りの紙芝居により説明するとともに、屋久島地杉加工センターの施設について説明が行われました。

施設の説明に聞き入る児童たち

施設説明では、製材機械の大きな音にビックリした児童もいましたが、真剣なまなざしで見学していました。

その後行われた、木工教室の本立て作成では、慣れない金づちやノコギリに苦戦する児童もいましたが、スタッフのサポートを受けながら楽しそうに作業を終え、完成したマイ本立てを見る児童達の姿は、達成感に満ちあふれていました。

児童達からは、「この加工施設はいくらかかったのですか」、「屋久島では植林をどれくらいしているのですか」など多くの質問があり、この取組が、屋久島の森林・林業について感心を持ってもらう良い機会となりました。

本立て作りに奮闘する児童たち

当署としては、今後とも森林環境教育など様々なことについて、県・屋久島町など関係機関と連携して取り組んでいく考えです。

人のうごき

☆2月16日付異動

総務課付
市原増雄【林野庁】
（担当＝総務課）

都会の中の憩いの森 監物台樹木園の多様な植物 ⑫④ ハクチョウゲ（アカネ科）

沖縄地方に自生していますが、熊本県植物誌、大分県植物誌には自生の掲載がなく、九州には自生していないようです。

観賞用又は生け垣用として栽培される小低木です。樹木園でもフジ棚（現在は棚状にはなっていない）の西側手前にチューリップやナノハナを植える区画があり、区画の仕切としてハクチョウゲが植えられています。

生け垣として強い刈り込みにも耐え、細かい枝が容易に分岐し、病虫害にも強いことから利用されています。

花は小さく漏斗状で5裂し、内面に細毛があり、裂片は3浅裂しています。一番の特徴は、花には2形あることで、短い花柱で高い雄しべのものと、長い花柱で低い雄しべのものがあることです。肉眼でも判別できますがルーペがあるとはっきりと2形を確認することができます。株は異なっています。

種子はほとんどつきませんが挿し木で簡単に増やすことができます。

名前の由来は、その花が丁字型の白い花をつけることからで、白鳥とは関係はないようです。

みどりの散歩路

またか！と思われた方も多かったのではないでしょうか▼今月1日、霧島連山・新燃岳が約4カ月半振りに小規模噴火、6日には、2011年3月以来となる爆発的噴火となってしまいました▼先月この欄で、草津白根山の噴火のことを書いたばかり、また、阿蘇山・中岳も2月28日に立ち入り規制が解除されましたが、今月3日には再び規制、日本全体で火山活動が活発化しているのでしょうか▼新燃岳については、地殻変動のデータ解析によりマグマの流れ込みが推測され、大規模噴火の恐れが懸念されていましたが、現実のものとなってしまいました▼周辺住民の方には不安が募る事でしょう、出来るだけ早くこの自然の驚異が沈静化することを願うばかりです▼さて、不安になることばかりでは気が滅入ります、ここで良い話を一つ▼今月号で「お知らせ」していますが、熊本地震で被災し、入谷規制されていた菊池渓谷が、今月24日に再開されることとなりました▼こちらは安らぎの自然です、皆さんぜひ菊池渓谷を訪れてみてください。（て）